国語科

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00062417

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

3章

実践事例

４の２　国語科学習指導案

場　所　４の２教室
指導者　中山　典子

単元名　物語のみりょくを伝え合おう　登場人物の変化を中心に

(1)　めざすコミュニケーションの姿
共感したり理解したりして聞く姿

(2)　本時のねらい
交流を通し，登場人物の行動や気持ちについて，自分の考えを広げたり深めたりすることができる。　（思考力，判断力，表現力等）

(3)　学習の展開

時	学習のながれ	・手だて　◎評価 ★めざすコミュニケーションの姿にせまるための手だて
3	**１．前時をふり返り，本時の課題を確認する** ○前の時間は，どんなことを勉強したかな。 ・プラタナスの木やおじいさんがいなくなっても，マーちんたちはなぜ前向きな気持ちになれたのかについて考えたよ。 **＜なぜおじいさんは木と親しいのか＞**	・次時に物語の魅力を伝える紹介文を書くため，解決したい課題を自分たちで考え，その課題で話し合うようにする。
17	**２．自分の考えを交流する** ○考えを伝え合い，自分の考えを広めよう。 ・おじいさんは，木の精だからだよ。Ｐ68Ｌ11「～みんなによろしく。」と書いてある。 ・私もそう思う。Ｐ69Ｌ７「～おじいさんのえがおが，しだいにぼんやり～。」や，Ｐ72Ｌ５「木が切られて～すがたを見せなく～。」の文からそう思ったよ。 ・Ｐ64Ｌ10「古い大きなプラタナスの木～。」から，おじいさんは木の精だと思ったよ。「古い」がおじいさんと関係がありそう。	・自由に書きこみができるようにするため，全文シートを用いて，小グループで話合いをする。 ★どのような意見が出ているかを視覚的に子供が把握できるようにするため，まなボードを活用する。 ・話合いがスムーズに進められるようにするため，必要な子供には司会者シートを提示する。
15	**３．考えを深める** ○もし，おじいさんが木の精なら，なぜマーちんたちの前に現れたの。 ・プラタナスの木を大切にしてくれると思ったからだと思うよ。 ・自然を大切にしながら生活してくれると思ったからかな。	
5	**４．本時をまとめ，ふり返る** おじいさんは，木の精だったから木と親しかったのかもしれない。プラタナスの木や自然を大切にする心をもってほしいと願って現れたのかもしれないね。	◎交流を通し，登場人物の行動や気持ちについて，自分の考えを広げたり深めたりしている。　（発言・ノート）

【実践のウリ】

話し合う活動は，国語科に限らず他教科でも取り入れられることが多い活動である。それゆえ，子供の話合いの質が高まれば、どの教科でも活発な話合いが展開される。そこで，本実践では，自分の考えを明確にしたり広げたりするタイプの話合いを行うことで，今の子供の現状を知り，司会者にはどんな力が必要なのか，そして，参加者にはどんな力が必要なのかを考えることにした。

【実践例】

合意形成等コミュニケーションの段階としてレベルの高いものを習得するには，話合いの進め方や司会者・参加者等の各々の役割を知っておく必要がある。そこで，本実践では，自分の考えを明確にしたり広げたりするタイプの話合いを小グループで行うことで，このタイプの話合いの進め方や司会者の役割を知ると同時に，参加者として友達の意見に反応したり，分からない点は質問したりすることに重点をおくことにした。そのため，手だてとして司会者には司会者シートを渡し，参加者には普段から教室に掲示してある反応の仕方の表（資料１）をもとに交流させることとした（資料２）。

司会者は，司会者シートをもとに話合いを進めていった。しかし，本学級は自分の考えを明確にしたり広げたりするタイプの司会には慣れていない子供が多い。そのため，友達の意見に対して質問を考えたり，友達から質問されたことに対して考えこんだりしている子供がいるにもかかわらず，司会者シートに書いてある通りに進行し，考える時間を与えない司会の姿が見られた。

一方，参加者は普段から掲示してある反応の仕方の表をもとに話合いを行った。課題についての話合いでは，友達の意見に反応し，「あーん。」「なるほど。」と共感して聞いている様子がうかがえた。また，友達の発言の意図を汲み自分の言葉に直して言うことで，理解を深めている姿も見られた。

深めの発問での話合いでは,「おじいさんは物知りだから経験が豊富だしね。」という友達の意見に対し,「どんな経験？」と質問し，友達の考えを理解しようとする姿が見られた。しかし，まだ一部の子供だけしかできていなかった。

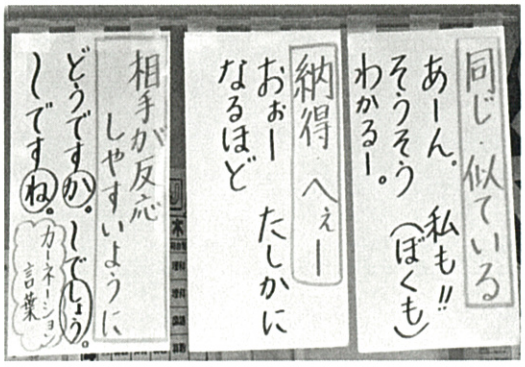
【成果】

子供は，友達の意見に反応しながら共感して聞いたり，自分の言葉に直して言うことで理解を深めたりしている姿が見られた。また，参加者自身が主体的に質問することで，友達の考えを理解しようとする姿もうかがえた。

【課題】

司会者に話合いの状況を見て考える時間を与えること，つまり「間をとること」を教えていく必要があった。また，参加者には，「なぜそう思ったの。」と問い返したり，「それって，つまり○○ということかな。」と意図を聞き返したりするような言い方を教える必要があると考えた。これらの言い方を指導した方が質問内容を考えるより子供にとって分かりやすく，取り組みやすいと思われるからである。こうすることで，子供の話合いの質が少しずつ高まり，今後自然な話合いができるようになると考える。

【資料】



資料１　反応の仕方の表

資料２　話合いの様子

６の３　国語科学習指導案

場　所　６の３教室
指導者　清水　義之

単元名　伝統文化を楽しもう　　～狂言　柿山伏，「柿山伏」について～

(1)　めざすコミュニケーションの姿

狂言について，多様な考えを出し合う姿

(2)　本時のねらい

狂言「柿山伏」について理解を深め，山伏と柿主の人物像を想像することを通して，昔の人のものの見方や感じ方についての理解を深めることができる。　　（知識及び技能）

(3)　学習の展開

時	学習のながれ	・手だて　◎評価 ★めざすコミュニケーションの姿にせまるための手だて
3	**１．本時の課題を確かめる** ○「柿山伏」の面白さについて話し合いましたね。 ・「山伏」と「柿主」のやりとりが面白かった。 **＜「狂言」を通して昔の人のものの見方や考え方を知ろう＞**	・柿山伏の面白さから狂言の面白さへ視点を変えることで，より古典文学への興味をもてるようにする。 ・事前に自分の意見をもたせておくことで，話合いがスムーズに行われるようにする。
15	**２．山伏と柿主の人物像について話し合う** ○共通点や相違点はあるかな。 ・見栄っ張りで悪いことを認めない人かなと思ったけど，自分も似たようなところがあるよ。 ・意地悪な人だと思ったけど，時代を考えると仕方ないね。	・タブレットやまなボードを用いて視覚的に他者の意見が見えるようにすることで，話合いが活性化するようにする。 ★現代社会に生きる自分達と比べることを通して，昔の人のものの見方や考え方と自分たちの共通点や相違点に着目させる。
15	**３．狂言への理解を深める** ○狂言が伝えようとしていることはどんなことかな。 ・ただの面白い話だと思っていたけどそうじゃないんだね。 ・今と柿に対する考え方が違うな。	・単元導入時の人物像と本時に考えた人物像を比較させることで，自分の変容が見えるようにする。
5	**４．まとめる** **共通点：罪を隠そうとするなどの人間らしさ** **相違点：時代によってものの見方や価値がちがうところ**	◎狂言について理解を深め，昔の人のものの見方や感じ方についての理解を深めている。　（発言・ワークシート） ・「附子」や「棒縛」などの演目を紹介することで狂言の面白さに広く触れさせる。
2	**５．ふりかえりをし，次時につなげる** ・こんな昔にも面白いお話があったのですね。	

【実践のウリ】

前時までに狂言について動きや声などの表現方法について感想を交流し，狂言の面白さを話合った。本時は表現方法からくる面白さに加え，昔の人のものの見方や考えを考えることで，狂言の内面的な面白さについても考えていく。また，単元の終末に行う音読劇に向けて新たな視点で狂言をとらえることで，より豊かな表現ができるようにしていく。

【実践例】

本時は昔の人のものの見方や考え方を考え，自分たちの音読劇につなげていく授業である。

授業の導入で課題とともに，本時の流れ（グループからワールドカフェ）や最終的なゴールの姿（昔の人のものの見方や考え方を知り，音読劇に取り入れる）を全体で共有することでなるべく教師の出場を減らし，子供が主体になるような授業にした。

まず，家庭学習で考えた自分の考えをグループで交流した。グループ内で①司会役②意見を出す役③意見をつなげる役④意見をまとめる役の４つの役割分担をして話合いをした。その際，話合いに集中させるためにメモを取ったり，ノートを見たりせず行った。自分の考えの根拠を示すときのみ，教科書（叙述）を示すようにした。

次に，まなボードに各グループでまとめた考えを書き，ワールドカフェ形式で交流を行った。子供は，交流後，各グループの意見を持ち寄って自分たちのグループの考えと比べながら質問を考えたり，自分たちの意見を変化させたりしていた。子供は終末には「人間の賢さや愚かさが今と変わらない。」「柿ぐらいと思っていたけど食べ物の大切さは今と違う。」など，今と昔の共通点や相違点を考えていた。また，「罪を隠す必死さを音読劇で表したい。」と音読劇に生かそうとする姿も見られた。

【成果】

導入で役割やゴールの姿を全体共有することで，見通しをもつことができ，主体的に話合いを進めることができた。

【課題】

考えの深まりが見られないグループもあったので，コミュニケーションスキルを掲示するなど，視覚的な支援を行うことでより深まりのある話合いができるのではないかと考えた。

家庭学習での子供の考えを教師が把握していたので，出場を考え，深めるための発問を入れることができたのではないか。そうすることで新たな視点やより深まりのある話合いにできるだろう。

【資料】

資料１　グループで話合っている姿

資料２　ワールドカフェ形式で説明している姿